

蔦重ゆかりの

江戸の文芸講座



今年はNHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺」の放映で、蔦屋重三郎がプロデュースした江戸時代後期の出版文化や、それを担った戯作者たちに注目が集まっています。蔦重とゆかりが深い江戸後期を代表する3人の戯作者たちを取り上げ、彼らの生涯と業績、代表作のストーリーなどを分かりやすく解説します。

講師／^{やまもく}山空 ^{まこと}誠氏（元県立高校国語教諭、元藤枝市史編さん調査委員）

会場／藤枝市文学館 講座学習室

第1回 蔦重ゆかりの戯作者①～^{こいかわはるまち}恋川春町

※終了しました

令和7年10月19日(日) 午後1時30分～3時

駿河小島藩（現静岡市清水区）の家臣であった恋川春町（1744-89）は、江戸詰めの用人として活動するかたわら、黄表紙約30冊を書いて、黄表紙の全盛時代を切り開きました。初期の出世作『金々先生栄花夢』（きんきんせんせいえいがのゆめ）を取り上げ、春町の生涯や著作を紹介します。

第2回 蔦重ゆかりの戯作者②～^{さんとうきょうでん}山東京伝

令和7年11月29日(土) 午後1時30分～3時

江戸後期の戯作者・浮世絵師、山東京伝（1761-1816）は、黄表紙・洒落本など多ジャンルの小説を書き、江戸小説界の中心作者として活躍しました。初期のヒット作『江戸生艶気樺焼』（えどうまれうわきのかばやき）を取り上げ、京伝の生涯と著作を紹介します。



第3回 蔦重ゆかりの戯作者③～^{きょくていばきん}曲亭馬琴

令和7年12月20日(土) 午後1時30分～3時

晩年、失明しながらも、長男の嫁に口述筆記させて、壮大な大作『南総里見八犬伝』を完成させたことで有名な曲亭（滝沢）馬琴（1767-1848）は、多作で知られ、生涯で450冊を超える著作を残しました。馬琴の生涯や著作を紹介します。



□受講料／大人各回 200 円・中学生以下無料

□定員／各回 45 名 □申込み 電話・FAX・メールで郷土博物館へ

藤枝市郷土博物館・文学館 藤枝市若王子 500（蓮華寺池公園内）TEL054(645)1100
FAX054(644)8514 Eメール muse@city.fujieda.shizuoka.jp